

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成17年4月7日(2005.4.7)

【公表番号】特表2000-515922(P2000-515922A)

【公表日】平成12年11月28日(2000.11.28)

【出願番号】特願平10-508908

【国際特許分類第7版】

C 1 1 D 3/04

C 1 1 D 3/12

C 1 1 D 3/395

【F I】

C 1 1 D 3/04

C 1 1 D 3/12

C 1 1 D 3/395

【手続補正書】

【提出日】平成16年7月2日(2004.7.2)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成16年7月2日

特許庁長官 小川 洋 殿

1. 事件の表示 平成10年 特許願第508908号

2. 補正をする者

名 称 ザ・クロロックス・カンパニー

3. 代理 人

住 所 東京都港区西新橋1-6-21

ダイヤ虎ノ門ビル6階

電話 3503-5460

氏 名 弁理士(6989) 竹 内 澄 夫

夫竹井
也内理
和澄夫

4. 補正対象書類名 明細書

5. 補正対象項目名 請求の範囲

6. 補正の内容 別紙の通り



(別紙)

請求の範囲

1. アルカリ性の、研磨剤の入っていない洗浄組成物であって、

水溶液中に、

組成物の約 0.1~10 重量%の量の酸化コロイドアルミナ濃化剤、

組成物の約 0.1~20 重量%の量の少なくとも 1 つの界面活性剤、

組成物の約 0.1~25 重量%の量の電解質／緩衝液、

組成物の約 0.1~15 重量%の量のハロゲン漂白剤、および

実質的に水溶性の二価イオンカルシウム源、

を含み、

前記界面活性剤は、それのみか、または複数の界面活性剤と一緒に使用し、洗浄活性および前記酸化コロイドアルミナ濃化剤と会合して濃化を与えるのに効果的であり、

前記電解質／緩衝液は、濃化を与えるように前記酸化コロイドアルミナ濃化剤と前記少なくとも 1 つの界面活性剤とが会合する環境を促進するのに効果的であり、

前記二価イオンカルシウム源は、組成物の約 0.0001~1.0 重量%の量のイオンカルシウムを提供する、

ところの組成物。

2. 請求項 1 に記載の組成物であって、

前記ハロゲン漂白剤は、ハイポハライト、ハイポハライト添加生成物、ハロアミン、ハロイミン、ハロアミドおよびハロイミドのアルカリ金属塩およびアルカリ土類塩から成る群より選択される、
ところの組成物。

3. 請求項 1 に記載の組成物であって、

前記電解質／緩衝液は、リン酸塩、ポリリン酸塩、ピロリン酸塩、三リン酸塩、テトラリン酸塩、ケイ酸塩、メタケイ酸塩、ポリケイ酸塩、炭酸塩および水酸化物、並びにこれらのアルカリ金属塩、並びにこれらの混合物から成る群より選択される、

ところの組成物。

4. 請求項 1 に記載の組成物であって、

前記二価イオンカルシウム源は、塩化カルシウムである、
ところの組成物。

5. 請求項 1 に記載の組成物であって、

イオンカルシウムの量は、組成物の約 0.0007~0.07 重量%である、
ところの組成物。

6. 請求項 1 に記載の組成物であって、

前記界面活性剤は、アニオン、非イオン、両性、双性界面活性剤およびこれら
の混合物から成る群より選択される、
ところの組成物。

7. 請求項 6 に記載の組成物であって、

前記界面活性剤は、アルカリ金属アルキル硫酸塩、第二アルカン・スルホ
ナート、アルキル・ジフェニル・エーテル・ジスルホナート、およびこれらの
混合物から成る群より選択されるアニオン界面活性剤である、
ところの組成物。

8. 請求項 6 に記載の組成物であって、

前記界面活性剤は、酸化アミンである、
ところの組成物。

9. 請求項 6 に記載の組成物であって、

前記界面活性剤は、アニオン界面活性剤と漂白剤安定性の非イオン界面活
性剤との混合物を含む、
ところの組成物。

10. 請求項 9 に記載の組成物であって、

前記アニオン界面活性剤は、第二アルカン・スルホナートであり、
前記漂白剤安定性の非イオン界面活性剤は、酸化アミンである、
ところの組成物。

11. 請求項1に記載の組成物であって、
さらに、C₆₋₁₄石けんを含む、
ところの組成物。

12. 請求項11に記載の組成物であって、
前記C₆₋₁₄石けんは、ラウリン酸のアルカリ金属石けんである、
ところの組成物。

13. 請求項1に記載の組成物であって、
イオンカルシウムの量は、組成物の約0.0007~0.07重量%である、
ところの組成物。

14. 請求項1に記載の組成物であって、
さらに、染料、顔料、着色剤、白色化剤、香料、溶剤、キレート剤、ビル
ダーおよびこれらの混合物から成る群より選択される添加剤を含む、
ところの組成物。

15. アルカリ性の、研磨剤の入っていない洗浄組成物で
あって、

水溶液中に、
組成物の約0.1~10重量%の量の酸化コロイドアルミナ濃化剤、
組成物の約0.1~20重量%の量の少なくとも1つの界面活性剤、
組成物の約0.1~25重量%の量の電解質/緩衝液、
組成物の約0.1~15重量%の量のハロゲン漂白剤、
脂肪酸石けん、および
実質的に水溶性の二価イオンカルシウム源、
を含み、

前記界面活性剤は、それのみか、または複数の界面活性剤と一緒に使用し、
洗浄活性および前記酸化コロイドアルミナ濃化剤と会合して濃化を与えるの
に効果的であり、

前記電解質/緩衝液は、濃化を与えるように前記酸化コロイドアルミナ濃
化剤と前記少なくとも1つの界面活性剤とが会合する環境を促進するのに効
果的であり、

前記二価イオンカルシウム源は、組成物の約0.0001～1.0重量%の量のイオンカルシウムを提供する、ところの組成物。

16. 請求項15に記載の組成物であって、

前記ハロゲン漂白剤は、ハイポハライト、ハイポハライト添加生成物、ハロアミン、ハロイミン、ハロアミドおよびハロイミドのアルカリ金属塩およびアルカリ土類塩から成る群より選択される、ところの組成物。

17. 請求項15に記載の組成物であって、

前記電解質／緩衝液は、リン酸塩、ポリリン酸塩、ピロリン酸塩、三リン酸塩、テトラリン酸塩、ケイ酸塩、メタケイ酸塩、ポリケイ酸塩、炭酸塩および水酸化物、並びにこれらのアルカリ金属塩、並びにこれらの混合物から成る群より選択される、ところの組成物。

18. 請求項15に記載の組成物であって、

前記界面活性剤は、アニオン界面活性剤と漂白剤安定性の非イオン界面活性剤との混合物を含む、ところの組成物。

19. 請求項18に記載の組成物であって、

前記アニオン界面活性剤は、第二アルカン・スルホナートであり、

前記漂白剤安定性の非イオン界面活性剤は、酸化アミンである、ところの組成物。

20. 請求項15に記載の組成物であって、

前記脂肪酸石けんは、ラウリン酸のアルカリ金属石けんである、ところの組成物。

21. 請求項15に記載の組成物であって、

前記二価イオンカルシウム源は、塩化カルシウムである、ところの組成物。

22. 請求項15に記載の組成物であって、

イオンカルシウムの量は、組成物の約0.0007~0.07重量%である、
ところの組成物。

23. 請求項15に記載の組成物であって、

前記脂肪酸石けんは、組成物の約10重量%に至る量で存在する、
ところの組成物。

24. 請求項15に記載の組成物であって、

さらに、染料、顔料、着色剤、白色化剤、香料、溶剤、キレート剤、ビル
ダーおよびこれらの混合物から成る群より選択される添加剤を含む、
ところの組成物。

25. 基質を洗浄する方法であって、

基質を、アルカリ性の、研磨剤の入っていない洗浄組成物と接触させる工
程を含み、

前記洗浄組成物は、水溶液中に、
組成物の約0.1~10重量%の量の酸化コロイドアルミナ濃化剤、
組成物の約0.1~20重量%の量の少なくとも1つの界面活性剤、
組成物の約0.1~25重量%の量の電解質/緩衝液、
組成物の約0.1~15重量%の量のハロゲン漂白剤、
脂肪酸石けん、および
実質的に水溶性の二価イオンカルシウム源、
を含み、

前記界面活性剤は、それのみか、または複数の界面活性剤と一緒に使用し、
洗浄活性および前記酸化コロイドアルミナ濃化剤と会合して濃化を与えるの
に効果的であり、

前記電解質/緩衝液は、濃化を与えるように前記酸化コロイドアルミナ濃
化剤と前記少なくとも1つの界面活性剤とが会合する環境を促進するのに効
果的であり、

前記二価イオンカルシウム源は、組成物の約0.0001~1.0重量%の量の二
価イオンカルシウムを与える、
ところの方法。

26. 請求項25に記載の方法であって、

前記基質は、汚れた、またはしみが付いた硬表面である、
ところの方法。

27. 請求項25に記載の方法であって、

前記基質は、汚れた、またはしみが付いた布である、
ところの方法。

28. 請求項25に記載の方法であって、

前記基質と組成物との接触は、基質の洗浄または洗濯の前に起こる、
ところの方法。

29. アルカリ性の、研磨剤の入っていない洗浄組成物を
調製する方法であって、

組成物の約0.1~10重量%の量の酸化コロイドアルミナ濃化剤、

組成物の約0.1~20重量%の量の少なくとも1つの界面活性剤、

組成物の約0.1~25重量%の量の電解質／緩衝液、

組成物の約0.1~15重量%の量のハロゲン漂白剤、

脂肪酸石けん、および

実質的に水溶性の二価イオンカルシウム源、

を水溶液中において結合させる工程を含み、

前記界面活性剤は、それのみか、または複数の界面活性剤と一緒に使用し、
洗浄活性および前記酸化コロイドアルミナ濃化剤と会合して濃化を与えるの
に効果的であり、

前記電解質／緩衝液は、濃化を与えるように前記酸化コロイドアルミナ濃
化剤と前記少なくとも1つの界面活性剤とが会合する環境を促進するのに効
果的であり、

前記二価イオンカルシウム源は、組成物の約0.0001~1.0重量%の量の二
価イオンカルシウムを与える、
ところの方法。